

FUJITSU

夢をかたちに

FUJITSU Way



目次

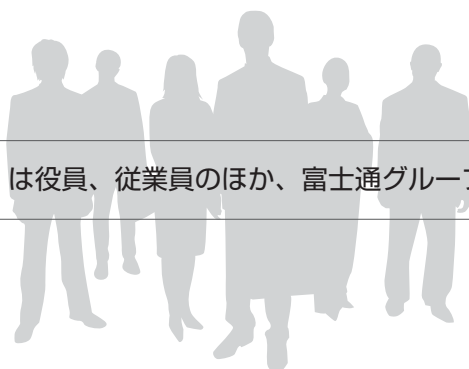
FUJITSU Way とは	2
企業理念	4
企業指針	5
目指します	
社会・環境	
利益と成長	
株主・投資家	
グローバル	
大切にします	
社員	
お客様	
お取引先	
技術	
品質	
行動指針	10
良き社会人	
お客様起点	
三現主義	
チャレンジ	
スピード	
チームワーク	
行動規範	13
人権を尊重します	
法令を遵守します	
公正な商取引を行います	
知的財産を守り尊重します	
機密を保持します	
業務上の立場を私的に利用しません	
事業方針	16

FUJITSU Way とは

FUJITSU Way は、社会における富士通グループの存在意義、大切にすべき価値観、および日々の活動において社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則を示したものです。

すべての社員が、この FUJITSU Way を十分に理解した上で、常に FUJITSU Way を意識する習慣を身につけることにより、自然と FUJITSU Way に沿った行動が実践できるようにならなければなりません。特に判断に迷ったときは、必ず行動の原点である FUJITSU Way に立ち返るということを徹底してください。

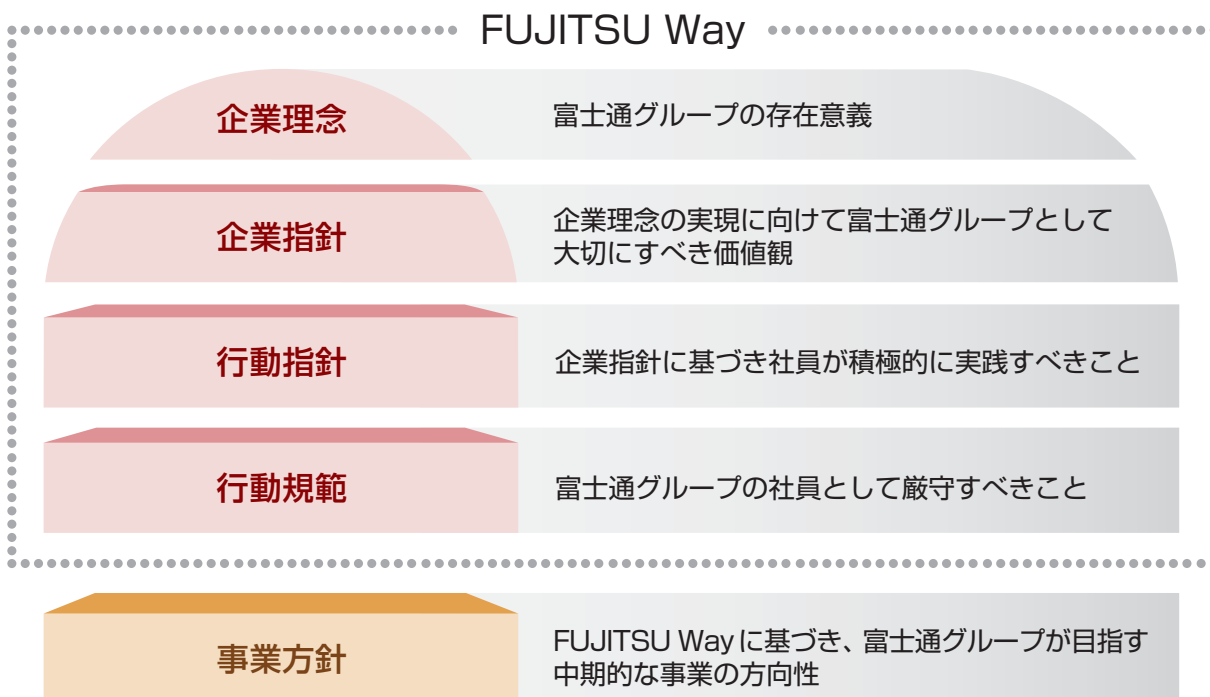
富士通グループは FUJITSU Way の実践を通じ、グループとしてのベクトルを合わせ、価値を最大化し、お客様およびビジネスパートナー、さらには国際社会・地域社会に貢献します。

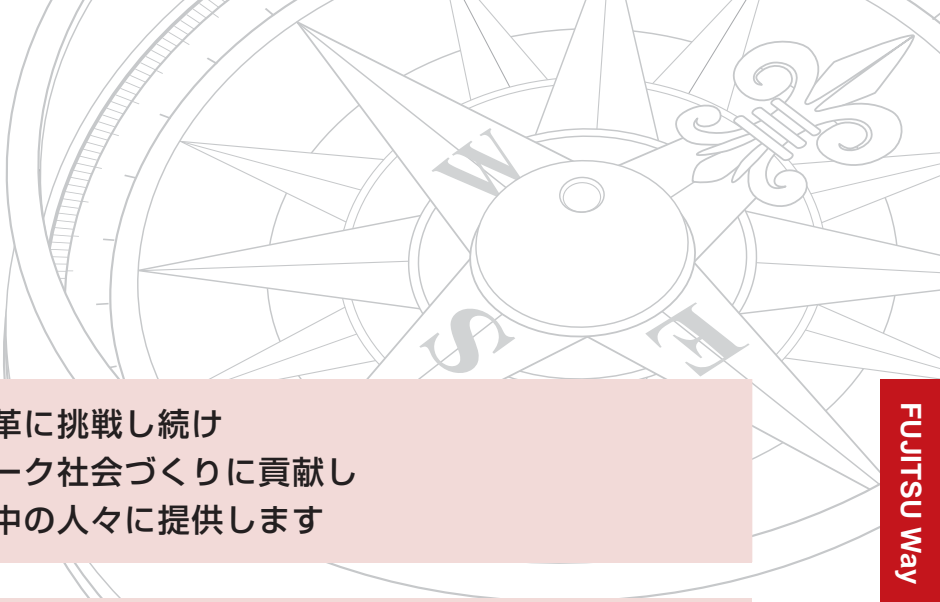


FUJITSU Way では、「社員」は役員、従業員のほか、富士通グループで働くすべての人を指します。

FUJITSU Way の体系

FUJITSU Way は企業理念、企業指針、行動指針、行動規範の四要素から成り立っています。





企業理念

富士通グループは、常に変革に挑戦し続け
快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し
豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します

FUJITSU Way

企業指針

目指します

社会・環境	社会に貢献し地球環境を守ります
利益と成長	お客様、社員、株主の期待に応えます
株主・投資家	企業価値を持続的に向上させます
グローバル	常にグローバルな視点で考え判断します

大切にします

社員	多様性を尊重し成長を支援します
お客様	かけがえのないパートナーになります
お取引先	共存共栄の関係を築きます
技術	新たな価値を創造し続けます
品質	お客様と社会の信頼を支えます

企業理念

企業指針

行動指針

良き社会人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します
お客様起点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します
三現主義	現場・現物・現実を直視して行動します
チャレンジ	高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します
スピード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します
チームワーク	組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します

行動指針

行動規範

行動規範

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

事業方針

事業方針

- フィールド・イノベーションにより、自らの革新とお客様への価値提供を追求します
- すべての事業領域において、地球環境保護ソリューションを提供します
- グループ各社が相互に連携し、グローバルな事業展開を加速します

企業理念

企業理念

富士通グループは、常に変革に挑戦し続け
快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し
豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します

企業理念とは、富士通グループの存在意義を示すものです。

常に変革に挑戦し続ける姿勢こそが富士通のDNAです。創業以来、富士通グループの発展は、それまで誰も考えていないような新しい可能性に着目し、その実現に向けて挑戦し続けていく姿勢を尊重する企業風土に支えられてきました。あらゆる面においてますます変化・競争が激しくなっている社会においては、より一層社員一人ひとりがチャレンジャーとして変化に挑戦することにより、企業として変革し続けなければなりません。変革とは、経営環境、技術、人、市場などの変化のなかで、新しい価値を生み出すことです。富士通グループは、チャレンジングな心で、価値を創造し続けます。

インフォメーション・テクノロジーの進歩は、人々の夢を実現してきました。この進歩は、とどまるところを知らず、グローバルな規模のネットワーク社会を形成して、ビジネスを変え、生活を変え、社会を大きく変えつつあり、もはや現代社会はITなしには成立し得なくなっています。富士通グループは、こうしたITインフラを支える企業として、誰もが等しく快適で安心して暮らせるネットワーク社会づくりに貢献するとともに、常にITの新しい可能性を追求し、新しい価値を創造し続けることにより、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します。

富士通グループのDNA

「夢をかたちに」

富士通は、人類の夢を、顧客の夢を、そして富士通の夢をも実現すべき、思考と創造の場であります。

(1989年 入社社長挨拶 山本卓真 第九代社長)

社会、企業、家族と個人をつなぐ、豊かなネットワーク社会の形成に貢献していきたいと思えます。

(1999年 創立記念日社長挨拶 秋草直之 第十一代社長)



企業指針

目指します

社会・環境	社会に貢献し地球環境を守ります
利益と成長	お客様、社員、株主の期待に応えます
株主・投資家	企業価値を持続的に向上させます
グローバル	常にグローバルな視点で考え判断します

大切にします

社員	多様性を尊重し成長を支援します
お客様	かけがえのないパートナーになります
お取引先	共存共栄の関係を築きます
技術	新たな価値を創造し続けます
品質	お客様と社会の信頼を支えます

企業指針とは、企業理念の実現に向けて富士通グループが大切にすべき価値観を示すものです。

目指します

社会・環境 社会に貢献し地球環境を守ります

富士通グループは、社会の一員として、企業活動を通じて豊かな社会づくりを担っていきます。

美しい地球環境が次の世代へと受け継がれるよう、富士通グループは、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけ、全事業領域にわたり明確な目標を設定し、計画的かつ継続的に活動を展開しています。

資材調達にあたっては、「富士通グループグリーン調達基準」に基づき、お取引先を含めたサプライチェーン全体にわたるグリーン調達を徹底します。また、開発段階から省エネルギー化を意識した設計、部材の選定を行い、環境負荷低減を実現した製品をお客様・社会に提供します。これらの自社の環境対策で培ったノウハウや強いインフォメーション・テクノロジーを結集し、お客様の環境課題解決に向けた環境ソリューションを提供し、お客様とともに地球環境を守ります。

さらに、文化・芸術活動、企業スポーツの振興、将来を担う青少年の育成、国際交流の支援、地域活動などの社会貢献活動を通じ、世界各地において地域に根ざした企業として地域社会との共生をはかります。

※ 詳細は以下に掲載されている社会・環境報告書をご参照下さい。
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/communication/report/>

富士通グループの DNA

環境対応というのは企業の存続条件です。これからも大事にしていきたいし、確実に実行していく必要があります。
(2007年 経営方針 黒川博昭 第十二代社長)

利益と成長

お客様、社員、株主の期待に応えます

富士通グループが永続的に社会に貢献し続けるには、まず健全な企業として存続し続けなければなりません。事業活動の結果として適正な利益を得て、その利益を次の成長のために投資することが企業存続のための必要条件です。

安定的に利益を生み出し、企業として永続的に活動し成長し続けることにより、富士通グループを選んでいただくお客様、投資して下さる株主、事業を支えていただくお取引先、そして企業活動を担う私たち社員など、あらゆるステークホルダーの期待に応えます。

このように企業価値を高め続けることによって、社会から厚い信頼をいただける企業になります。

富士通グループのDNA

安定成長と安定的発展を目指して行けば、発展には限りがないのだから、会社はますます良くなるだろう。これから「限りなき発展」という言葉を当社の合言葉として行こう。

(1962年 販売連絡会議 岡田完二郎 第五代社長)

株主・投資家

企業価値を持続的に向上させます

富士通グループは、戦略的な事業展開と効率的な経営を行い、かつ健全な財務体質を維持しつつ、長期にわたる安定的な利益の拡大と成長を実現することで、企業価値を継続的に向上させ、株主・投資家の期待に応えます。また、株主・投資家の皆様に、このような企業価値向上の取り組みとその成果を理解いただけるよう、事業活動の状況や財務情報を適時・適正に開示し、経営の透明性を高めます。

富士通グループのDNA

富士通自身が富士通の株主に対して、その投資に見合う利益を還元していくことが必要です。私たちは、投資に対する利益、富士通の企業価値への期待へ応えていく責任と義務があります。

(2007年 くらさん通信「株主の関心とは」 黒川博昭 第十二代社長)

グローバル

常にグローバルな視点で考え判断します

世界のフラット化・グローバル化が急速に進んでいる中で、富士通グループは真のグローバル企業となるため常にグローバルな視点で事業を展開します。

グローバル化とは、単に日本以外での売上比率を高めることではありません。富士通グループのすべてのリソースを結集して、グローバルにビジネスを展開しているお客様をサポートする力を高めるとともに、各地域で蓄積されたビジネスのノウハウを世界中の富士通グループで共有し、すべてのお客様のビジネス拡大のために、さらに発展させていくことです。富士通グループはそのための人材育成と体制づくりに注力します。

富士通グループは、グローバルな視点を持った上で、新しい発想や技術を取り入れながら、それぞれの地域に根ざした事業活動をより一層推進していくとともに、グローバルなビジネス能力をさらに強化することにより、FUJITSU ブランドの信頼と価値を高めます。

大切にします

社員 多様性を尊重し成長を支援します

社員は富士通グループの最大の財産です。

さまざまな個性や考え方を持った社員がその能力を結集することにより、富士通グループの企業価値が高まります。そのために富士通グループは社員の多様性を尊重します。また、社員が仕事を通じてその能力や専門性を高め、自己の成長を実現できるよう支援します。

具体的には、以下に取り組みます。

- 個人の生活と仕事の調和に配慮し、活力ある企業風土づくりを行います。
- 公正な評価を行い、適正な報酬によって報います。
- 能力開発の機会を提供し、積極的に支援します。
- 安全・快適に働くことのできる職場環境を提供します。

富士通グループは社員一人ひとりが自らの価値を高め、誇りとやりがいを持って働くことができる企業であり続けます。

富士通グループのDNA

従業員のすべてが喜びと誇りを感じる様な会社にせねばならないと痛感した。
(1935年 「富士通信機ニュース」 吉村萬治郎 初代社長)

お客様 かけがえのないパートナーになります

富士通グループは、あらゆる発想と行動の原点をお客様に置き、お客様の成功に貢献し、お客様のパートナーとなり共に成長することを目指しています。そのためには、製品やサービスを単に販売するという発想ではなく、お客様の事業にどう貢献するのかというお客様起点の考えを、商品開発、サービス提供、営業活動などの中で徹底することが重要です。

かけがえのないパートナーになるためには、常にお客様の事業について考え、成功に向けた積極的な提案を行い、お客様の満足を獲得し、長期的な信頼関係を築くことが必要です。インフォメーション・テクノロジーのプロフェッショナルとして、私たちはお客様にあえて苦言を呈することも辞さず、議論を交わしあえる関係を構築します。

このような考え方は、企業から個人まですべてのお客様に対して共通であり、サービス、プロダクトなど事業の分野を問いません。

富士通グループのDNA

顧客との間に面倒を生じたる場合には、顧客の心を心として速やかに対策を樹て円満なる解決を期する事
(1935年 会社創立時 吉村萬治郎 初代社長)

富士通の目標は、「お客様が競争優位確立の為にITを使いこなし、事業・経営を成功に導く」ためのかけがえのないパートナーになりたいという事である。

(2003年 ころさん通信「スピーチノート」 黒川博昭 第十二代社長)

お取引先 共存共栄の関係を築きます

富士通グループの事業活動は、その付加価値の基となるさまざまな物品、部材、ソフトウェア、サービスなどを提供していただいているお取引先や、製品・サービスを扱っていただいているパートナー様などによって支えられています。

この中であって、富士通グループとお取引先とは、相互に切磋琢磨を積み重ねることにより長期的な信頼関係を構築し、良きパートナーとしてお互いが自己の力をより一層発揮し、共に繁栄・存続していく、共存共栄の関係を築いていきます。

さらに、富士通グループはお取引先とともにサプライチェーン全体で、地球環境保全、法令遵守、人権尊重・労働・安全衛生、製品・サービスの安全性・品質の確保、情報セキュリティの維持・推進、公正取引・企業倫理などに配慮した事業活動を推進します。

富士通グループの DNA

富士通の事業は皆様（お取引先）のご協力がなければ成り立ちません。
パートナー（お取引先）の皆様とともに、富士通は総合力を最大限に活かし、お客様の経営を支えます。
(2007年 お取引先懇親会挨拶 黒川博昭 第十二代社長)

技 術 新たな価値を創造し続けます

富士通グループは創業以来、技術の限りない可能性を信じ、インフォメーション・テクノロジーの革新に挑戦し続けてきました。世界に先駆けて開発した超高速トランジスタ HEMT (High Electron Mobility Transistor)、日本語による情報処理を可能とした日本語情報処理システム「JEF」、情報・通信システムの総合サービス体系「PROPOSE」など、常に時代の先駆けとなる技術とそれに裏付けられた画期的な商品を生み出し、それをてこに飛躍的な成長を遂げるとともに、IT 社会の発展をリードしてきました。このあくなき新技術への探究心が富士通グループ成長の原動力です。

お客様のビジネスに貢献するため、富士通グループは時々刻々と変化するお客様のニーズをタイムリーにとらえ、お客様から評価される技術を探求し、それをお客様の価値に高めます。さらに、グローバルでの競争を視野に入れて新たな市場を開拓し、他社との差異化、デファクトスタンダード化をしていきます。

IT 社会の進歩はとどまるところを知らず、これからも私たちの生活やビジネスを飛躍的に変えていきます。富士通グループは今まで誰も気づかなかった発想に基づく革新的な技術開発で、新たな価値を創造し続け、快適で、安全なネットワーク社会の構築に貢献します。

富士通グループの DNA

今後とも当社が“限りなき発展”をしていくためには、新しい高度の技術の開発に積極的に取り組んでいかなければなりません。
常に目的意識をはっきりさせ、あらゆる角度から種々の方策を考え、その中でもっとも良い方向を選ぶことが「創造」です。
(1977年 「富士通ニュース」 小林大祐 第八代社長)

品質

お客様と社会の信頼を支えます

富士通グループはグローバル化、高度化した現代のネットワーク社会のインフラを支えており、お客様に提供する製品・サービスの品質は、そのまま世界中の人々が拠って立つネットワーク社会の信頼性を左右します。誰もが等しくネットワーク社会がもたらす便益を安心して享受できるよう、富士通グループは品質を事業活動の根幹に関わる事項としてとらえ、その維持・向上に日々たゆまず取り組みます。

良い品質とは、単に製品・サービスの機能が規格に適合しているということではありません。富士通グループにおける品質とは、お客様との接点に関わるすべての業務が対象となります。したがって、一般に品質といえば、開発・製造部門やサービス部門だけの責任ととらえられがちですが、営業およびサプライチェーンに関わるすべての部門において、業務の品質向上に取り組まなければなりません。また、品質を考えるときに、自己満足ではなくお客様が期待するレベルの品質を実現するという考え方が大切です。

こうしたそれぞれの部門での品質向上活動が、富士通グループとしてのブランドイメージをつくりあげます。快適で安心できるネットワーク社会を支えるために、無限に品質を追求し、お客様と社会から信頼される企業であり続けます。

富士通グループの DNA

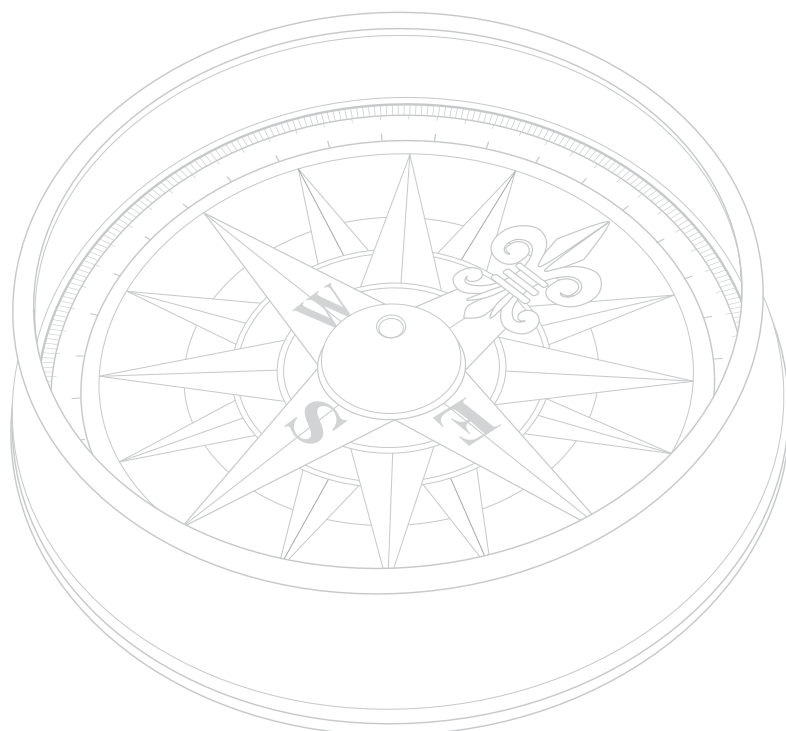
「質はどこでもものを云う」

単に欠陥をなくすというだけでなく、更に一步前進して「信頼性を高める」ことに総力を結集する。

(1966年 「高信頼性運動の実施に当たって」 岡田完二郎 第五代社長)

お客さんに売るのは機械でなく信頼だよ。

(1995年 「小林大祐さんの思い出」 小林大祐 第八代社長)



行動指針

行動指針

良き社会人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します
お客様起点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します
三現主義	現場・現物・現実を直視して行動します
チャレンジ	高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します
スピード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します
チームワーク	組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します

行動指針とは、企業指針に基づき社員が積極的に実践すべきことです。

良き社会人 常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します

富士通グループは、世界中のさまざまな国や地域において、社会と密接に関わりながら事業活動を行っています。私たちは企業人である前に社会人であることを自覚し、社会の良識ある一員として、健全な倫理観と誠実さをもって行動します。

良き社会人に求められるものは、法律や社会のルールを守ることや、挨拶や礼儀などの基本的なマナーを身につけることではありません。私たちは常に社会・環境に目を向け、社会・環境が必要としているものを察知し、自分に何ができるかを考えてそれを行動に移します。また、行動する際は、私たち一人ひとりが富士通グループを代表しているのだという気概を忘れてはいけません。

社会との関わりにおいて、重要な要素となるものの一つがコミュニケーション力です。コミュニケーションは単に情報や知識のやりとりだけでなく、感情の共有を伴うものです。相手の意見に耳を傾け、相手の気持ちを尊重し、理解しようとすることで、お互いの信頼関係が深まり、円滑なコミュニケーションが実現します。また、コミュニケーション力を高め、広く社会と関わることは、人間としての魅力の醸成にもつながります。



お客様起点

お客様起点で考え、誠意をもって行動します

富士通グループは、優れた製品やサービスをどう売るかという発想ではなく、社員一人ひとりがお客様の事業にどう貢献するかという観点で、常にものごとを考え、日々の業務で実践し、誠意をもって行動することにより、お客様にとってかけがえのないパートナーとなることを目指します。

将来の予測が困難な時代において、お客様の要望や利用シーンの変化を速く、的確にとらえて、私たち自身がお客様起点で変革していくという姿勢が重要です。

「お客様『起点』」とは、「お客様『視点』」と意味が違います。「視点」はお客様とは別のサイドに立って考えるという意味ですが、「起点」というのははっきりとお客様のサイドに立つことです。

これらの考え方は、直接お客様と接する部門に限ったことではなく、製品を介してお客様と接する部門、例えば開発・設計部門や間接部門なども含めて、「お客様は誰なのか、なぜ数多くの企業の中から私たちを信頼し、選んでいただけるのか」という観点で、富士通グループの一人ひとりが具体的に考え、自分の仕事の範囲にこだわらず行動することが重要です。

三現主義

現場・現物・現実を直視して行動します

私たちを取り巻くビジネス環境は時々刻々と変化しています。この変化を常に可能な限りすばやくとらえ、目標を設定しその達成に向けて適切に行動しなくては、ビジネスの成功はあり得ません。

目標を確実に達成するためには、計画し、実行し、チェックを怠らず、適切に行動するというサイクルを回すことが大切ですが、その前提となるのが、現場・現物・現実をしっかり見据え、さらにその背後にある本質を追求しようとする姿勢です。計画にあたっては、現場の声を聞き、直接足を運んで現物にじかに接し、現実の状況を正確に把握することが重要です。そして、実行段階においても、現場・現物・現実を常にチェックし、その上で課題が発生していないか、解決に向けて何が必要かを判断し、次の行動に反映させることが必要です。高度な知識や卓越した理論も、本質的な課題を見極め、実践的な行動に結び付けてこそ意味を持ちます。



チャレンジ

高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します

時々刻々と変化し続けるビジネス環境の中では、新しいチャレンジがなければ、停滞し衰退するだけです。富士通グループが新たな価値を創造し、成長を続けていくためには、社員一人ひとりが現状に満足することなく、高い目標にチャレンジしていく必要があります。

チャレンジするという意味は、人や組織が当たり前に行っている仕事をして達成できるレベル以上の目標を自らに課し、その達成に向けて、もてる力を最大限に発揮するということです。そのためには、まず、高い目標を設定するところから出発する必要があります。「ともかくやってみろ」という小林元社長の大切な言葉がありますが、「とてもできないかな」と思うところを目指して自分の力、組織の力を出し切ることを意味しています。

高い目標へのチャレンジには困難やリスクが伴いますが、途中であきらめたり、妥協したりすることなく、一歩一歩粘り強く取り組むことが大切です。「卓越」に向けて果敢に挑戦し、不断の努力を惜しまず、そして壁に突き当たったときには、どのようにその障害を乗り越えるかを考える知恵と汗の積み重ねが、自らと富士通グループの成長の原動力になります。

スピード

目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します

ビジネスチャンスは、変化をとらえ、将来を見据え、誰よりも早く行動することで生まれます。どんなに優れたアイデアであっても、お客様が必要とするタイミングで提供できなければ、価値がなくなってしまいます。まさにスピードそのものが価値となります。

社員一人ひとりが「時間の価値」を認識し、達成すべき目標に向かってスピードを持って行動することが求められます。そのためには、必要とされる手続きを踏まえた上で最適なプロセスを明確にし、状況の変化があった場合には、迅速かつ柔軟な対応をすることが重要で、それが組織としてのスピードアップにつながります。

スピードは、お客様満足度をさらに高め、新たなビジネスチャンスを生み出す富士通グループの競争力の源泉となることを、常に意識します。

チームワーク

組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します

私たちの仕事は、さまざまなメンバーによるチームワークが基本になります。チームワークによって個人の力の総和以上の力が発揮され、より高い目標の達成が可能になります。

チームワークにおいては、まず何のためにこの仕事をするのかという目的をメンバー全員で共有することが必要です。さらに、何をいつまでに達成するべきかという目標を設定し、到達度合いを確認しながら、目標達成に向かって一人ひとりがもてる力を十分に発揮し、自らの責任を果たすことが大切です。

また、私たちは自部門にとどまらず、組織間のチームワークも大切にします。組織間のチームワークをうまく機能させるためには、各組織の長の役割が特に重要となります。組織を超えて対話を重ね、目的を共有し、自部門の利益だけを主張することなく、富士通グループ全体の利益を考えて行動します。

行動規範

行動規範

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

富士通グループの社員として厳守すべきことを表したものです。

■ 人権を尊重します

一人ひとりの人権を尊重し、人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメントなどの人権侵害行為をしてはなりません。また、そのような行為を助長し許容してはなりません。

私たちのまわりには、いわれなき理由で人権侵害行為を受け、苦しんでいる人々があります。私たち自身が人権侵害行為をしないことはもちろんのことですが、他人の人権侵害行為に同調したり見過ごしたりすることも、その行為を認め、助長することにつながります。また、自分の言動により、差別とは気づかずに人を傷つけている場合もあります。差別を見抜き、差別をしない、させないためにも、私たちは人権問題を正しく理解・認識し、人権尊重の精神と人権感覚を養うことが必要です。

私たちは富士通グループの社員として、差別などの人権侵害行為を許さないという毅然とした態度で行動することが大切です。社員一人ひとりが人権に配慮し行動することは、富士通グループが人権に配慮する企業として社会的評価を受けることにつながります。

■ 法令を遵守します

私たちは、時に自分の行動が法律に照らして正しいかどうかを省みることが必要です。たとえ愛社精神に基づく行為であっても、法律に違反することは、決して許されるものではありません。また、自分では正しいと思い込んでいても、実際には違法である場合もあります。ビジネスを進める上で、自分たちの行動が法律に違反しないか、事前によく確認することも大切です。なお、これは狭い意味の法律だけを問題にしているわけではありません。法律、条約、政令、条例、慣習など社会的に公正と認められるルールを尊重し、遵守しなくてはなりません。

さらに、日頃から社会通念とか、常識、商道德といったものにも意識を向け、常に個々の活動がこれらに則っているかを点検することが必要です。また、富士通グループはグローバル企業として自国の法律だけでなく、海外各国の法律、慣習などもよく理解し尊重しなければなりません。例えば、海外には自国とは違ったビジネス慣習があり、自国のビジネスの常識だけで行動することはできないこともあります。このため、私たちは海外でビジネスを行うにあたっては、その国の法律はもとより、歴史や慣習、民族性も十分理解したうえで行動しなければなりません。

■ 公正な商取引を行います

お客様、お取引先および競争会社への対応は、いかなる場合も公正でなければなりません。

例えば、お客様に対しては、合理的な理由がないのに、差別的な対応をしてはいけませんし、お取引先に対しては、常に謙虚な姿勢で接することが必要です。また、競争会社に対しては、不正な手段を用いず、いかなる場合も公正な競争関係を保たなければなりません。競争会社との間で、価格をはじめ生産・販売量、お取引先、販売地域などの制限について取り決めること、あるいは、それらについて話し合うことも、公正な競争関係を阻害し、法令違反となることないし法令違反となる恐れが大きいことを、常に念頭に置いて行動する必要があります。

■ 知的財産を守り尊重します

富士通グループは、常に新しい価値の創造に努め、お客様の期待に応えられる商品やサービスをグローバルに提供することにより、ネットワーク社会づくりに貢献しています。富士通グループのこうした創造的活動の成果である知的財産は、多大な資金と労力を費やして生み出されたものであり、非常に高い財産的価値を有しています。知的財産が、重要な経営資産として富士通グループの事業活動を支えていること、そのことがお客様にパートナーとして安心していただけることになるのだということを、強く意識して行動することが必要です。具体的には、特許権、著作権、商標権といった権利をきちんと取得・確保し、自社の事業で活用して企業収益を向上させていくことが大切です。富士通グループの一人ひとりが持つ知識やノウハウそのものが富士通グループのビジネスに優位性を与え、強力な武器となるという理解を深めなければなりません。

同時に、他社の知的財産を尊重し、正当な手続きを経て入手、利用しなければなりません。

■ 機密を保持します

情報を適切に取り扱うことは、富士通グループの企業活動の基本であり、生命線でもあります。情報は、比較的単純な不注意で社外に漏れるおそれがあり、しかもいったん漏れると、被害が甚大となるばかりか、富士通グループの信用も失われます。したがって、私たちは情報の種類に応じて、取り扱いのルールを正しく理解し、そのルールを徹底して遵守するとともに、不注意により機密情報や個人情報が出流することのないよう常日頃からセキュリティを強く意識した行動をとらなければなりません。

[自社の情報の取扱い]

私たちは、日常の業務を遂行するにあたって、さまざまな社内の情報にアクセスする機会があります。これら社内で流通している情報は、基本的に会社の秘密であり、しかるべき手続きを経ないで社外に開示することや、会社業務を遂行する目的以外で使用することはできません。

[お客様など第三者の情報の取扱い]

私たちは、お取引先やお客様との契約に基づいて、秘密情報の開示・提供を受ける場合があります。このような第三者の秘密情報（他社秘密情報）は、情報の利用目的や管理の方法、期間など、契約ごとにさまざまな条件が課されていますので、契約上の守秘義務に違反しないよう、適切に取り扱わなければなりません。

[個人情報の取扱い]

私たちは、ビジネスを行う過程で、個人情報を収集・蓄積して、私たちの業務に役立てる場合もあります。このような個人情報を取扱う場合には、各国の法令に基づき、適切に管理・利用しなければなりません。

■ 業務上の立場を私的に利用しません

企業における自分の立場や会社の情報を利用して、または企業における自分の任務に背いて、自分自身や自分の関係する人のために利益を図ってはなりません。

また、富士通グループの所有するソフトウェア、機器など富士通グループの財産を業務遂行の目的以外に利用・処分（売却、貸与など）してはいけません。

さらに、私たちが富士通グループに在籍することにより得られた富士通グループや他社の未公表情報を利用して、株式や証券の取引を行うことは禁止されています。



事業方針

事業方針

- フィールド・イノベーションにより、自らの革新とお客様への価値提供を追求します
- すべての事業領域において、地球環境保護ソリューションを提供します
- グループ各社が相互に連携し、グローバルな事業展開を加速します

事業方針は、FUJITSU Way に基づき、富士通グループが目指す中期的な事業の方向性です。富士通グループは、ここに掲げる三つの事業方針を柱としてすべての事業を展開し、お客様とともに成長することを目指します。

■ フィールド・イノベーションにより、自らの革新とお客様への価値提供を追求します

富士通グループは、「人」と「プロセス」と「IT」を見える化することで本質的課題を見極め、人の知恵によって課題解決を行うフィールド・イノベーションにより、自らを革新し、また継続的に価値を創造し続け、お客様のビジネスの革新に貢献します。

フィールド・イノベーションを実践するには、まず解決すべき問題に関係するあらゆる対象領域をフィールドとして設定し、現場・現物・現実を直視して本質的な課題を見える化します。その上で、なぜそうになっているのか、どうすべきなのかを考え、徹底的に人の知恵を活かしてフィールドを構成している人の意識と行動やプロセスを改善し、最適な IT を適用することを継続的に繰り返すことで、革新につなげていきます。

フィールド・イノベーションは、私たちのすべての事業活動を展開する上での基本的な考え方であり、お客様にサービスやソリューションを直接提供する部門だけではなく、プロダクトやデバイスなど製品を通してお客様に価値を提供する事業部門を含めたすべての部門に共通する考え方です。特にお客様の経営課題を解決し、ビジネスの成功に貢献するビジネスソリューションの提供が重要となってきたサービス分野においては、フィールド・イノベーションの実践は必要不可欠です。

富士通グループは、お客様の成功に貢献する価値を継続的に創造するために、フィールド・イノベーションにより自らを革新し続けます。

■ すべての事業領域において、地球環境保護ソリューションを提供します

天然資源枯渇、温暖化、廃棄物による汚染といった地球環境問題はますます深刻さを増してきており、環境課題への対応は、今やすべての企業、個人が自分自身の問題として取り組むべき最優先課題となっています。

富士通グループは、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけ、製品の環境対策やグリーン調達などの環境活動を実践してきました。今後は、環境負荷低減プロジェクト「Green Policy Innovation」に基づき、すべての事業領域において環境保護の観点で事業構造・プロセスの見直しを行います。

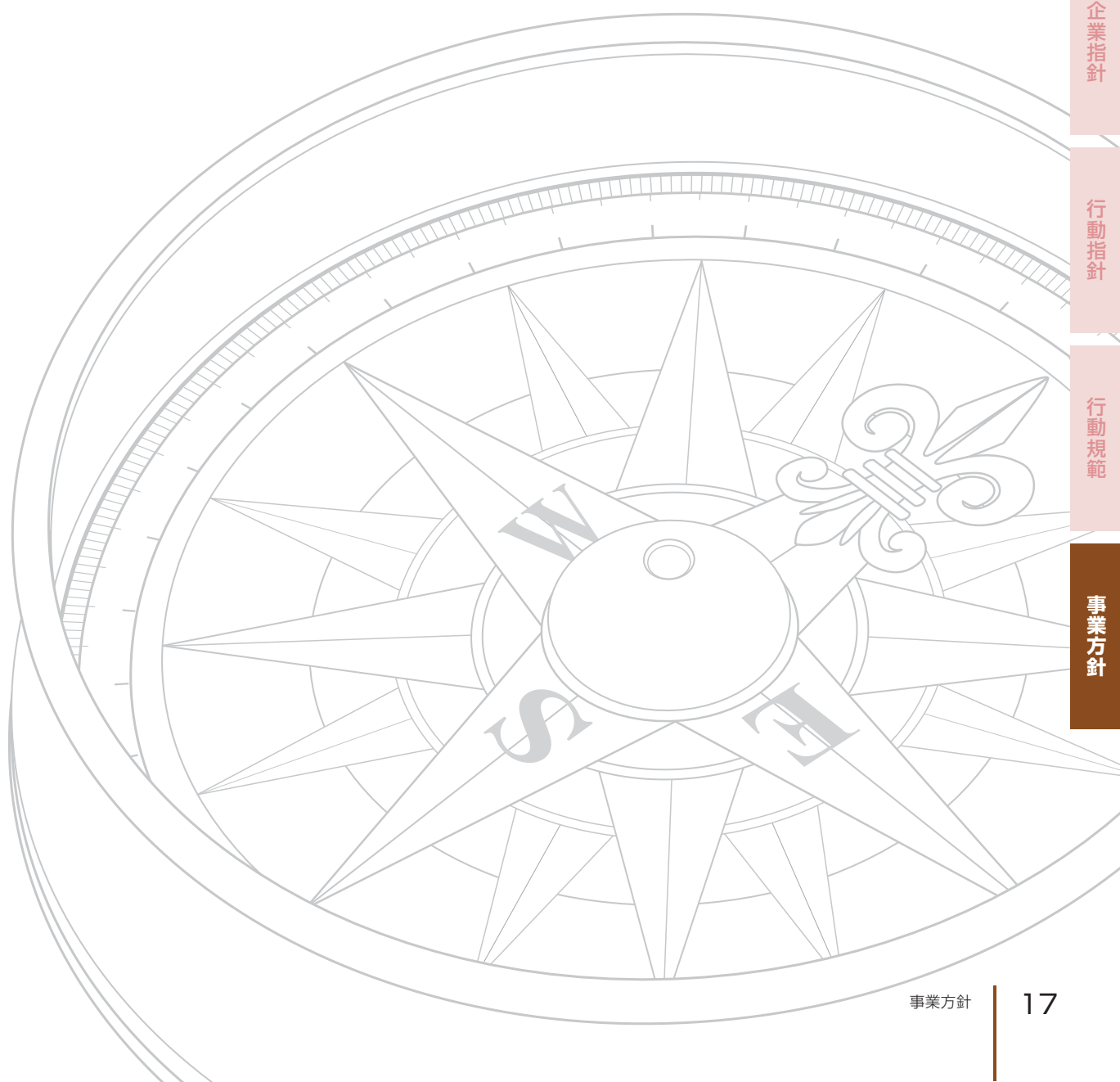
これまで培ってきた富士通グループのノウハウと最先端テクノロジーをいかして、「IT インフラの環境負荷低減」と「IT 活用による環境負荷低減」を実現する製品・サービスをソリューションとしてお客様へ提供していきます。

※ 「Green Policy Innovation」については以下を参照ください。
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/green-it/approach/>

■ グループ各社が相互に連携し、グローバルな事業展開を加速します

富士通グループの売上の大半を占める日本市場は、すでに成熟して大きな成長が見込めない状況です。一方で世界の各地域別のIT市場の成長率を見ると、ほとんどの地域で日本を上回っており、私たちが生き残り、さらに発展していくためにはグローバルな事業展開の強化が必要不可欠です。

富士通グループ各社がそれぞれ培ってきたノウハウや経験をお互いに共有し、緊密な連携を持ちながら協力することが必要です。例えばサービスビジネスにおいては、全世界のサービス拠点がお客様に対してグローバルに一貫性のあるサービスを提供するために、サービスの工業化／デリバリーの標準化など、グローバルサービス共通プラットフォームの整備・開発を推進していきます。



FUJITSU Way

初 版 2008年 4 月

発 行 富士通株式会社 FUJITSU Way 推進室

Copyright 2008,2014 FUJITSU LIMITED



この冊子には、森林認証紙、大豆インキ、有害な廃液をださない水なし印刷方式を採用しています。